

福島県郷土資料情報  
No.60 2020.2  
(特集「郷土福島の地名調べ・虎の巻」)

編集・発行:福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



『郷土誌』

(飯曾石橋村, 大甕村, 山上村・玉野村, 八幡村,  
鹿島町, 磯部村, 太田村, 大野村)

## 目 次

特集「郷土福島の地名調べ・虎の巻」 .....	1～6
貴重郷土資料探照 20「明治末期 浜通りの郷土誌」 .....	7～8
令和元年度「ふくしまを知る連続講座」報告 .....	9～10
令和元年度「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来 講演会」報告 ...	11
福島県関係書誌の紹介 2019 .....	12～17



## 郷土福島の地名調べ・虎の巻



### 巻、知りたい地名についての情報を整理する

・それは地名ですか、それとも山の名前、川の名前などですか。

←「地名事典」の他に山の名前を集めた事典など様々な事典があります。

・場所は現在のどのあたりですか、またその地名が示す範囲はわかりますか。

←調査対象資料を絞り込む手掛かりとなります。

・いつ頃使われていた地名ですか。

←地名は生まれたり消えたりします(合併に際しては市町村名としては消えても区や字(あざ)として残ることもあります)。使われていた時代によって調査対象の図書も変わってきます。

・漢字だけでなくヨミもわかりますか。

←漢字は当て字が使われることもあります。図書館では資料に書いてあるとおりの漢字で入力しています。例えば白河/白川のように二通りの表記がある場合、「ヨミ」で検索したり、二通りの漢字で検索したりのように検索方法を工夫する必要があります。また地名は福島市丸子(マリコ)のように特殊な読み方をする場合もあります。

・その地名や場所に関係の深い人物や事柄、建物はありますか。

←地名を調べるときは主に地理関係の資料を探しますが、その場所で生まれ育ったなど関係の深い人物がいればその人の伝記等、またランドマーク的な建物や施設があればその記念誌などに古い地図などが掲載されていることがあり参考になります。

・すでに調べた資料があれば書名、該当ページなどを控えておきましょう。

←もういちど参照するときに便利です。また調べた資料に参考文献一覧がついていれば、その参考文献も調査対象にしましょう。



## 貳. 福島県立図書館について知る

### (1) 実際の書棚をみってみる

図書館の資料にはすべて本の背の部分にラベルが貼ってあります。当館では3段ラベルを使用しています。福島県関係の資料(地域資料)は1番上の段がLをつけた数字で、この数字の順番に左から右、上から下へ棚に並んでいます。LはLocalの頭文字で地域資料であることを示します。福島県の地理関係の資料は一番上段がL291.□です。四角の中の数字で大まかな地域がわかります。各数字が示すのは以下の地域です。

1	福島市 (信夫郡)	4	須賀川市・岩瀬郡・田村市・田村郡・石川郡	7	南会津郡・大沼郡・河沼郡
2	伊達市・二本松市・伊達郡・安達郡	5	白河市・西白河郡・東白川郡	8	いわき市
3	郡山市 (安積郡)	6	会津若松市・北会津郡・喜多方市・耶麻郡	9	相馬市・南相馬市・相馬郡・双葉郡

例: 『相馬地名考』 新妻三男／著  
相馬郷土研究会 1990  
のラベル



L291.9
N1
2

### (2) 蔵書検索を使ってみる

100万冊以上ある当館資料を探すためにはコンピュータによる検索が不可欠ですが、万能ではありません。蔵書のデータは「書名」「著者名」「出版者」等で構成され、これらに検索語が含まれている資料を検索結果として返してきます。目次を登録してある図書、雑誌も一部ありますが、多くの資料では登録されていないため目次に含まれている単語から本・雑誌を探すことはできません。また、Google booksのような本文の全文検索もできません。検索結果が0の場合、その場所を含む、より広い範囲を示す地名で検索するなどの工夫が必要となります。

当館の蔵書検索だけでなく、目次や雑誌記事見出し情報の登録件数の多いNDL-ONLINEなど、インターネット上に公開されているデータベースを併用するのがおすすめです。

## 参. 基本的な資料を押さえる

### (1) 代表的な地名事典

- ① 『日本歴史地名大系 第7巻 福島県の地名』 平凡社 1993  
「五十音別索引」「難読地名一覧」「文献解題」あり。「行政区画変遷・石高一覧」の表も便利。
- ② 『角川日本地名大辞典 7 福島県』 角川書店 1981  
五十音順に配列。「難読地名索引」あり。「地誌編」で市町村別の地誌を解説。「小字一覧」あり。

- ③『大日本地名辞書 第7巻 奥羽 増補版』 吉田東伍／著 富山房 1970  
郡別に排列。別に索引巻あり。かな、漢字索引あり。最初の版は明治39年に発行。

## (2)様々な地名の事典

- ①『三省堂日本山名事典』 徳久 球雄／編集委員 三省堂 2011  
2万五千分の1地形図掲載の山名・峠名を掲載。巻末には画数から引ける漢字索引あり。
- ②『河川名よみかた辞典』 日外アソシエーツ 1991  
画数順に排列。音読索引あり。

## (3)事典以外で地名を掲載する資料

### ①風土記・郡村誌とよばれる地誌類

江戸時代に編纂された『新編会津風土記』や明治以降県の訓令により編纂された『安積郡誌抄』ほかの郡誌には古い地名、山名、河川名などが収録されています。県内の風土記・郡村誌については『福島県立図書館 本の森への道しるべ 地域 10-2 風土記, 郡村誌』として一覧にしHPでも公開しています。またインターネット公開されている資料については当館HPリンク集内の「ふくしまについて調べるためのデジタル化資料(デジタルふくしま)」で紹介しています。

### ②地図

#### i 国土地理院発行地図

明治時代～現代まで国土地理院(前身の陸軍参謀本部を含む)が作成した地図を所蔵しております。当館の所蔵状況はHP>資料案内>国土地理院地図(県内)で確認することができます。

#### ii ガイドブック

旅行ガイド、登山ガイドなど様々なガイドブックには縮尺の大きな地図が掲載されていることがあります。

#### iii 地図集成

『明治・大正日本都市地図集成』 地図資料編纂会／編 柏書房 1986

1903(明治36年)「福島市街地図」を収録

『昭和前期日本都市地図集成』 地図資料編纂会／編 柏書房 1987

1936(昭和11年)発行「最新刊番地入福島市全図」, 1934(昭和9年)発行「最新刊若松市地図」, 1932(昭和7年)発行「平町全図」を収録

#### iv 職業別明細図

『大日本職業別明細図』 東京交通社／編 東京交通社 1937

※国立国会図書館デジタルコレクション 送信参加館公開資料

『福島県 会津若松市 会津地方図』 東京交通社／編 東京交通社 1941

※大日本職業別明細図第699号

『福島県 伊達・信夫郡全図』 東京交通社／編 東京交通社 1941

※大日本職業別明細図第688号

#### v 住宅地図

近年の地名については住宅地図も参考になります。ただし、人家のない場所については掲載されていません。当館ではおおむね昭和 50 年代以降の県内分を所蔵しておりますが、市町村毎に所蔵する年代は違います。詳細はHPの資料案内>住宅地図(県内)をご覧ください。

明治時代の住宅地図ともいえる「地籍図」は福島県歴史資料館で保存しています(閲覧は複製品を利用するということです)。

#### vi 古地図

「福島県立図書館所蔵 明治期以前地図・絵地図目録」

(『福島県郷土資料情報 No.43』 福島県立図書館 2003 に掲載)

当館所蔵の明治以前発行の地図の一覧です。当館 HP から excel ファイルでダウンロードできます。一覧に掲載するものでも、状態が悪く閲覧できない地図もありますのでご注意ください。

国土地理院 古地図コレクション

<https://kochizu.gsi.go.jp/>

国土地理院が保管する古地図をインターネット上で閲覧できます。

#### ③市町村史

各市町村史に古い地図や地名が掲載されていることがあります。索引のある市町村史の場合、地名から引くことができる場合もあります。また地名に特化した巻のあるものもあります。

例：『福島市史資料叢書 第38輯 福島の小字』 福島市史編纂委員会／編

福島市教育委員会 1983

#### (4)インターネットで調べる

##### ①地図空間情報ライブラリー

<http://geolib.gsi.go.jp/>

国土地理院の提供するサイトです。地図や空中写真を地名で検索し、閲覧することができます。地理院地図を使うと作図もできます。

#### ～こんな地図もあります～

『只見町の川地図』 風光舎／制作 只見町プラセンター [201-]

地名は人が付けるものですから、その場所に行く人がいなくなると忘れられ、失われてしまいます。地図には作られた時点のその土地に住む人々の暮らしが記録されています。『只見町の川地図』は伊南川と只見川の支流の名前を町の人々へ聞き取りして作成された地図で、地形図等にはのっていない小さな川の名前まで記録されています。ユニークかつ貴重な地図と言えるでしょう。

## 肆、事例に学ぶ

事例. 江戸時代のことを調べているが、現在の会津若松市域内に「石田」という地名があったか。もしくは福島県内に「石田」という地名はあったか。

まずは基本の事典をしらべます。

### 『角川日本地名大辞典 7 福島県』

p100 いしだ

いしだ 石田 福島市 近代 昭和 41 年～現在の福島市の地名。もとは旧福島町域(大字なしの地域)の一部

いしだ 石田 霊山町 中通り北部、石田川流域の阿武隈山地のふもとに位置する。

〔近代〕 石田村 江戸期～明治 22 年の村名。伊達郡の内。はじめ会津領～。

〔近代〕 石田 明治 22 年～現在の大字名。

この事典では会津若松市の石田は見つかりませんでした。ではもう1冊の地名事典も調べてみます。

### 『日本歴史地名大系 第7巻 福島県の地名』

p1039 石田(会津若松市)

経沢村 現:会津若松市湊町平潟 「～本村の北西1町10間余に端村石田がある～(新編会津風土記)」

索引によると他の石田は

石川町、本宮町(現:本宮市)、福島市、塩川町(現:喜多方市)、喜多方市、会津本郷町(現:会津美里町)にあるようです。

石田村は

霊山町(現:伊達市)にあるようです。

「現在の会津若松市域内の石田」は会津若松市湊町平潟にあった地名のようです。

出典とされている『新編会津風土記』をみましょう。『新編会津風土記』

にはいくつかのバージョンがありますが、ここではまず索引のある歴史春秋出版の

『新編会津風土記 第5巻』を使います。「い」の項を確認しても、「石田」はありません。「石田」は「経沢(へざわ)村」の「端村」という解説でしたので、「経沢村」を探すと、「②43」となっています。これは2巻のp43 ということなので、該当部分をみてみると「経沢村」があり、「端村 石田」についても位置、家の数など2行ほどの解説があるので、おおまかな位置の推定に役立つと思われます。また、『新編会津風土記』の「巻之二十七」に収録されていることがわかります。

『新編会津風土記』は昭和7年に『大日本地誌体系』の第30～34巻として雄山閣から発行され、この版は国立国会図書館デジタルコレクションにおいてインターネット公開されていますので、ご自宅等で閲覧することが可能です。「巻之二十七」は第31巻に収録されています(右上の図が該当部分です)。



## 伍、終わりに～インターネットでの情報公開を活用する～

レファレンス協同データベース <https://crd.ndl.go.jp/reference/>

「国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベース」で、各館が調査した事例を提供しています。当館も参加しています。

事例は検索が可能ですので過去に同じことや似たことを調べた事例が見つかるかもしれません。地名の調査に限らず利用できます。

p1 のイラストはすべて『北斎漫画』（国立国会図書館デジタルコレクション）より

(地域資料チーム 田中信乃)



## 明治末期 浜通りの郷土誌

当館では平成 27(2015)年度から今年度にかけて、所蔵する浜通りの『郷土誌』17 点のデジタル化を行いました。これらの郷土誌は、明治 44(1911)年の福島県訓令に基づいて、各小学校の学区ごとにまとめられたものです。明治期の地域の様子を伺い知ることができる貴重な資料です。



『郷土誌 金房村』表紙

デジタル化した郷土誌一覧		
新地村	駒嶺村	大野村
八幡村	山上村	玉野村
日立木村	磯部村	八澤村
上真野村	鹿島町	飯曾石橋村
新館大須村	高平村	大甕村
太田村	小高町	金房村

※山上と玉野は 2 村で 1 冊

明治 44 年、内務省の指示を受けて、福島県において大規模な郡誌・郷土誌の編纂が行われました。福島県は訓令第 34 号(明治 44 年 6 月 30 日)をもって、県内の小学校、町村役場、郡市役所に「郷土誌編纂要項」を提示し、これにより多くの郡誌が刊行されました。県内の各小学校においても、学区内の郷土誌を記録することが義務付けられており、この編纂要項に基づいて郷土誌の編纂が行われました。

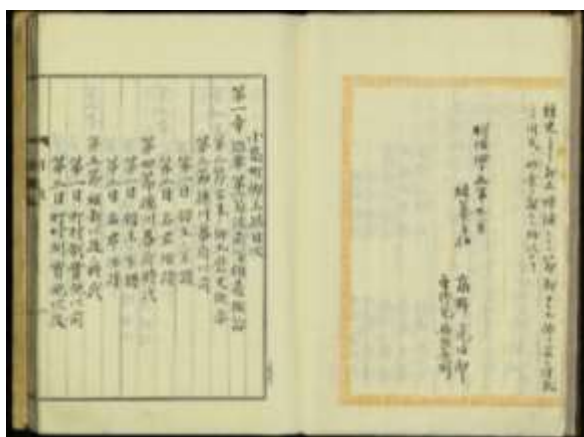
当館で所蔵する上の『郷土誌』は、明治 45(1912)年頃に浜通りにおいて作成されたものです。いずれも明治 44 年の訓令に基づいて編纂されており、巻頭の「緒言」には、「本誌ハ明治四十四年六月福島縣訓令第三十四號ニ基キテ之ヲ編纂セリ」と記載が見られます。また、基本的に 18 章の概ね共通した章立てにより構成されており、一定の様式に沿って作られていることが分かります。

第一章 沿革	第二章 地勢	第三章 気象
第四章 生物	第五章 戸口	第六章 官公署
第七章 学事	第八章 社寺及宗教	第九章 兵事
第十章 衛生	第十一章 警察	第十二章 風俗習慣
第十三章 経済	第十四章 生業	第十五章 交通
第十六章 口碑伝説	第十七章 人物	第十八章 名勝旧蹟

体裁は B5 よりやや大きく (195×270mm)、用紙に筆書きされています。巻頭に地域の全体図を示した絵図が折り込まれているものもあります。前述の章立てに従い、歴史、地理、自然、人口、教育、風俗や方言、農業・水産・蚕業・工業・商業といった各産業、交通、史跡名勝などの内容が記述されています。人口等の各種統計は、直近 5 年から 10 年間程の年次統計が、所定と思われる様式に書き込まれています。

郷土誌は、基礎資料として市町村史作成の際に引用されているものも多くあります。新地村、駒嶺村の郷土誌は『新地町史 資料編』（新地町史編さん委員会／編 新地町教育委員会 1982）に、新館大須村、飯曾石橋村の郷土誌は『飯館村史 第1巻』（飯館村史編纂委員会／編 飯館村 1979）に翻刻も収録されています。明治末期におけるその地域の地誌が記録されており、今日でも活用できる部分も多い資料ではないでしょうか。

デジタル化した資料は、CD-ROMに保存しており、館内のパソコンで閲覧していただける他、館外への貸出も可能です。ぜひご利用ください。



『郷土誌 小高町』緒言・目次



『郷土誌 上真野村』上真野村全図

<参考文献>

『福島県史 第4巻』 福島県 1971

『福島県史 第21巻』 福島県 1967

『日本歴史地名大系 第7巻 福島県の地名』 平凡社 1993

『福島県教育史 第3巻 現代編』 福島県教育センター／編集 福島県教育委員会 1973

『福島県教育史編さん資料 第5集 教育関係例規大正時代および昭和16年まで』 福島県教育委員会 1971

p261-272 「郷土誌編纂要項 昭和七年一月十四日福島県訓令第二号」

『新地町史 資料編』 新地町史編さん委員会／編 新地町教育委員会 1982

『飯館村史 第1巻 通史』 飯館村史編纂委員会／編 飯館村 1979

『双葉町史 第1巻 通史編』 双葉町史編さん委員会／編 双葉町 1995

『福島市史 別巻7 福島の文化』 福島市史編纂委員会／編 岩瀬書店 1989

「福島県立図書館所蔵貴重郷土資料探照 18 浜通りの郡村誌・郡誌・郷土誌」(『福島県郷土資料情報』No. 56, 2016. 3 p1)

※明治初期からの福島県における皇国地誌、郡誌・郡村誌、郷土誌について詳しくはこちらもご参照ください

(地域資料チーム 板津恵子)

# 令和元年度「ふくしまを知る連続講座」 実施報告

当館では県民の皆様の文化振興に寄与するため、「ふくしまを知る連続講座」を実施しています。ここでは今年度開催したものを簡単に紹介します。

## 第1回 「私の好きなふくしまの山」

講師：西岡 義治 氏

開催日：令和元年6月16日（日）14：00～15：30 参加人数：120名

『わが愛しき福島山の山』（彩流社,2018）等を著し、外務省の太平洋諸島フォーラム事務局（フィジー）で勤務された経験もある西岡氏に、福島県の山に興味を持った経緯や、その自然の豊かさ、心ひかれた人々の優しさについてお話ししていただきました。福島市松川町に残る「羽山ごもり」の体験談や、フィジーのメラネシア文化と日本の祖霊信仰の共通点など、ご自身の長年の経験から語られる言葉に、参加者が熱心に耳を傾ける様子が見られました。また、会津の木地師（ろくろを使って木製の食器等を作る職人）の話題では、蒲生氏郷が会津に入り、近江から職人を連れてくる以前にも、すでに木地師が存在していたことを取り上げ、現在に残る会津漆器との関連についても紹介されました。このほかにも福島市の土湯こけしなど、身近な話題を豊かな体験談をもとに説明していただきました。

※この講座に関連し、令和元年6月13日（木）～7月3日（水）にかけて、ミニ展示「ふくしまの山」を開催しました。

## 第2回 「はま・なか・あいづ再生史」-遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-

講師：阿部 知己 氏（県文化財センター白河館 副主幹）

開催日：令和元年6月23日（日）14：00～15：30 参加人数：40名

令和元年10月に発生し、県内各地に甚大な被害をもたらした台風19号は記憶に新しく、未だ復興の途上にあります。福島県では古くから各地域が災害に見舞われてきましたが、そのたびに再建し、立ち上がってきました。今回の講演会では下記展示の内容を踏まえ、県内3地方それぞれの遺跡に残る災害の痕跡から、その後の人々の営みについて講演していただきました。焦点が当てられたのは、浜通りの津波、中通りの阿武隈川氾濫、そして会津での火山噴火です。残された史料から読み取ることができるのは、人間と自然が共存してきた足跡です。このことを後世に伝えるために私たちには何ができるのか、改めて考えるきっかけとなりました。

※この講座は令和元年6月7日（金）～7月3日（水）にかけて当館で開催された、「福島県文化財センター白河館（まほろん）移動展示 はま・なか・あいづ再生史 -遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-」の関連事業です。

### 第3回 「四季折々 ふくしま ほんものの旅」

講師：第1部 季刊情報誌『ふくしまほんものの旅』について

武藤 淳 氏（県観光物産交流協会観光部長）

第2部 登山と観光の情報サイト「やまふく」について

清水 綾子 氏（県観光交流課副主査）

開催日：令和元年9月15日（日）14：00～15：30 参加人数：42名

本県の観光に携わる方々にガイドブック、ホームページ作成へかける思いや、おすすめの観光スポットについてお話ししていただきました。題名にもある情報誌は春・夏・冬の年3回発行されており、カラフルな表紙が特徴です。読者層は女性がメインとのことで、県内各地の温泉やお土産情報等が満載です。一方、サイト「やまふく」では、県内の山々を「ふくしま30座」として紹介しています。有名な山だけではなく地元で愛される山にもスポットを当て、登山コースやトレッキングの案内を掲載しているほか、周辺情報として温泉やグルメの話題も収録されています。※この講座は令和元年9月6日（金）～10月2日（水）にかけて当館で開催した、「ふくしま観光ガイドブック展」の関連事業です。

### 第4回 「からむし織の里・昭和村歴史紀行 ―生業・信仰・戊辰戦争―」

講師：渡邊 智裕 氏（[公財]福島県文化振興財団 歴史資料課 主幹）

開催日：令和元年10月27日（日）14：00～15：30 参加人数：36名

「からむしの里」昭和村の歴史について、古文書や行政文書をもとに講演していただきました。特産として有名なからむしの栽培方法は、江戸時代に記された農書（農業技術書）に記載があります。今回は『会津農書』と『農業全書』を参考に説明していただきました。また、村内の2つの神社に残る古文書を読み解き、その信仰について解説をいただいたほか、明治政府が造った「官修墳墓」に関する資料から、昭和村における戊辰戦争の展開についてもお話ししていただきました。※この講座は、令和元年10月4日（金）～11月10日（日）にかけて当館で開催された、「福島県歴史資料館移動展示 奥会津の古文書 -昭和村を中心に-」の関連事業です。

### 第5回 「福島の偉人 三浦謹之助博士～ふくしまに残した足跡と周辺の人々」

講師：高橋 信一 氏（伊達市教育部生涯学習課学芸員）

開催日：令和元年11月23日（土）14：00～15：30 参加人数：43名

三浦謹之助博士は伊達市（旧保原町）出身で、現在の東京大学医学部を卒業後、明治天皇や大正天皇の医者として活躍した人物です。今回の講演会では、開催していた下記展示をもとに、最近になって判明した新たな知見を踏まえた内容をお話ししていただきました。また、三浦博士の周辺人物も取り上げられ、博士が東京で成功を収めた背景には、同じく医師で、樋口一葉の最期をみとった義兄からの支援があったこと等が話題に上がりました。そのほか、信達地方に養蚕が発達した経緯や、文化人が多く生まれたその背景についてもお話ししていただきました。※この講座は、令和元年11月12日（火）～12月4日（水）にかけて当館で開催された、「伊達市保原歴史文学資料館移動展示『福島の偉人 三浦謹之助博士』」の関連事業です。

（地域資料チーム 高橋真希）

# 令和元年度「朝河貫一博士から学ぶ ふくしまの未来 講演会」実施報告

「朝河貫一が文通したアメリカ人の女性たち～福島県立図書館所蔵の書簡から～」

講師：甚野 尚志 氏（早稲田大学文学学術院教授）

開催日：令和元年 7 月 14 日（日） 14：00～15：30

参加人数：62 名 会場：福島県立図書館 講堂

福島県出身の国際的な歴史学者、朝河貫一について講演していただきました。二本松で生まれ、アメリカへ渡った朝河の生涯と研究について追いながら、残された書簡から読み取れる交流の様子などをお話いただきました。



当館が所蔵する朝河貫一資料や、アメリカのイェール大学図書館に保管されている「Asakawa Papers」から、今回は特に、マーガレット・ダイヤモンドやグレッチェン・ウォレン、アリス・ヴァンダービルト・モリスといった、アメリカ人の女性たちと交わした書簡を中心にとりあげ、解説していただきました。朝河は裕福な知識層の女性たちと書簡をやりとりしており、文通を通じて自らの生活や研究、日本の状況、政治的理想などを述べていたということ

です。国際協調と世界平和こそが人類の永遠のテーマであると生涯訴えた朝河貫一の姿勢を改めて感じました。

参加者アンケートでは「今までに知りえなかったことが分かり、参考になった」「丁寧に研究されてきたことがよくわかる」「ポイントを絞った内容で興味深かった」といった感想をいただきました。

※講演会に合わせて、令和元年 7 月 5 日(金)～7 月 31 日(水)にかけて、関連する書簡や図書の展示を行いました。



(地域資料チーム 板津恵子)

# 福島県関係書誌の紹介・2019

このリストは、当館で所蔵する2019年1月から12月までに刊行された福島県関係の資料のなかで、1つの主題や人物について20以上の文献を紹介しているものを集成した書誌です。(一部の主題は20以下でも収録しています)

主題編と人物編に区分し、それぞれ主題、人名の50音順、発行年月順に配列しました。なお、主題は検索の便宜を優先して付けましたので、厳密な体系化は考慮していません。

2018年以前発行資料で、「福島県関係書誌の紹介・2018」に未収録のものも併せて集録しました。

特定の主題、人物についての文献リストとして活用していただければ幸いです。

凡例

## 主題

### ⇨関連主題

- ・(掲載数) 項目  
「論文名」 編著者 『資料名』 編著者  
出版者 発行月 項目掲載頁  
\*備考

## 主題編

### 医学・医療

#### ⇨太田総合病院

- ・(50)発表論文  
『太田総合病院学術年報 第54号』太田総合病院 9月 p8-20, 71-73

#### ⇨福島県立医科大学

- ・福島県立医科大学業績 論文・著書・研究発表等  
『福島県立医科大学業績集 平成29年』  
福島県立医科大学附属学術情報センター  
3月 p1-622

### 泉官衙遺跡

#### ⇨南相馬市

- ・(32)参考文献  
『泉官衙遺跡保存活用計画』 南相馬市  
教育委員会文化財課／〔編〕 南相馬市  
教育委員会 2月 p117

### 看護学

#### ⇨福島県立医科大学

- ・(61)業績一覧  
『福島県立医科大学看護学部紀要 第21号』 福島県立医科大学看護学部 3月 p39-48  
\*業績一覧から著書や論文の数を掲出

### 猪苗代町

- ・(36)引用・参考文献  
『猪苗代を歩く』兼田芳宏／著・発行 3月 p112

### いわき市

- ・(36)おもな参考文献  
『写真が語るいわき市の100年』いき出版 7月 p279

### 石城国

- ・(86)参考文献  
「奈良時代初めの岩城国の役割と建国の背景」 荒木隆／著 『福島県立博物館紀要 33号』3月 p71-72

### 慧日寺

#### ⇨徳一

- ・(30)主な参考文献  
『仏都会津を今の世に』 笠井尚／著  
ラピュータ 2018年9月 p[171-172]

### 大池(白河市)

- ・(50)引用文献  
「調査報告 福島県白河市大池とその周辺の植物相」 齋藤佑樹・黒沢高秀／  
〔共著〕 『福島大学地域創造 31(1)』  
9月 p143-144

### 郡家(磐城郡)

- ・(69)参考文献  
「陸奥南部における郡家の地域支配の様相—磐城郡をモデルとして—」 荒木隆／著 『福島県立博物館紀要 33号』3月 p49-50

### 鉱物

- ・(72)参考図書・文献  
『郷土の鉱物』 橋本悦雄／編著・発行 2018年11月 p283-285

## 古代史

- ・(1484)引用・参考文献  
『北からみた倭国』 福島雅儀／著 雄山閣 5月 p315-353

## 古墳

- ・(43)引用・参考文献  
『FUKUSHIMA 前期古墳アラカルト』 大安場史跡公園／編・発行 7月 p [12]

## 七十七銀行平支店

- ・(70)参考文献  
『いわき市と七十七銀行平支店百年の歩み』 七十七銀行総合企画部／編著 七十七銀行 1月 p215-219

## 障がい者問題

- ・(381)文献表  
『行き還り繋ぐ 障害者運動 於&発 福島の50年』 青木千帆子／著 生活書院 9月 巻末

## 書誌

- ・(17)  
『書誌年鑑 2019』 有木太一／編 日外アソシエーツ 12月  
\*飯舘村(p19),長田弘(p64), からむし(p92),喜多方市(p110),日下部善己(p130),久保猪之吉(p131),小室直樹(p175),さとうひろし(p189),高橋新二(p296),斗南藩(p351),福島県(p410),福島県史(p410),福島市(p410),福島第一原子力発電所(p410),福島第一原子力発電所事故(p410-411),古川日出男(p420),松平容保(p448)の書誌が掲載。

## 白河藩

- ・(70)主要参考文献  
『特別企画展 白河藩主七家二十一代』 白河市歴史民俗資料館／編・発行 8月 p79

## 総目次

### ⇨いろいろばた

- ・会報『いろいろばた』総目次  
『いろいろばた 創立60周年記念誌』 上野興世[ほか／編] 南会津山の会 6月 p55-67

## 蔵書目録

- ・朝河貫一資料目録  
『福島県立図書館所蔵 朝河貫一資料目録 改訂版』 甚野尚志・福島県立図書館／共編 福島県立図書館 1月 p
- ・(436)購入図書一覧(平成30年度),寄贈図書一覧(平成30年度)  
『福島県議会資料 議会資料 平成31年2月～3月号』 福島県議会事務局 政務調査課 4月 p184-199
- ・(305)山口弥一郎旧蔵ノート目録  
『福島県立博物館紀要 33号』 3月 p85-112

## 大学

### ⇨福島大学

- ・(32)業績一覧  
『行政社会論集 第31巻第4号』 福島大学行政社会学会 3月 p108-112  
\*業績一覧から著書や論文の数を掲出
- ・(30)編集後記  
『商学論集 第87巻第4号』 福島大学経済学会 3月 p47-51  
\*編集後記から著書や論文の数を掲出

### ⇨いわき短期大学

- ・(14)研究活動報告  
『いわき短期大学研究紀要 第52号』 いわき短期大学 3月 p65-72  
\*研究活動報告から著書や論文の数を掲出

## 田中遺跡

### ⇨会津若松市

- ・(27)参考文献  
『田中遺跡』(会津若松市文化財調査報告書 第153号) 五十嵐純一／編著 会津若松市教育委員会 2018年3月 p72
- ・(27)参考文献  
『田中遺跡 2』(会津若松市文化財調査報告書 第160号) 五十嵐純一／編著 会津若松市教育委員会 3月 巻末

## 草地

- ・(29)引用文献  
「資料 福島県内に現存している半自然  
草地の現状と特徴」 薄井創太・黒沢高秀  
／[共著] 『地域創造 第30巻第2号』  
福島大学地域創造センター p120-121

## 大悲山石仏

- ・(24)参考・引用文献  
『大悲山石仏保存活用計画』 南相馬市教  
育委員会文化財課／[編] 南相馬市教育  
委員会 2018年8月 p137

## 高橋遺跡

### ⇔ 檜葉町

- ・(58)引用・参考文献  
『高橋遺跡 第1次調査』(檜葉町文化  
財調査報告書 第19集) いわき市教  
育文化事業団／編集 檜葉町教育委員  
会 3月 p279-280

## 中世瓦

- ・(27)引用参考文献  
「陸奥南部」 山中雄志／著 『中世瓦  
の考古学』 高志書院 5月 p35

## 蝶(福島市)

- ・(24)引用文献  
「調査報告 福島大学金谷川キャンパ  
ス内の蝶類群集」 塘忠顕／[著] 『福  
島大学地域創造 31(1)』 9月  
p101-102

## 南湖

- ・(24)引用文献  
「資料 奥州白川南湖真景に描かれた  
福島県白河市南湖の1816年当時の生物  
多様性と土地利用」 黒沢高秀／[著]  
『地域創造 第30巻第2号』 福島大  
学地域創造センター 2月 p9

## 東日本大震災

- ・(93)文献一覧  
『3・11以後の環境倫理』 菅原潤／著  
昭和堂 4月 p165-170
- ・(21)参考文献  
「ふくしまの経験と歴史学」 阿部浩一  
／著 『歴史を未来につなぐ』 歴史学

研究会／編 東京大学出版会 5月  
p38-39

- ・(37)参考文献  
「福島の復興」 加藤眞義／著 『震災復  
興と展望』 有斐閣 8月 p266-267

## 福島県

- ・(50)文献一覧  
「福島論」 河西英通／著 『「生存」  
の歴史と復興の現在』 大月書店 2月  
p317-319
- ・(165)福島県  
『郷土・地域をしらべるレファレンスブ  
ック 日外アソシエーツ株式会社／編  
集・発行 2018年9月 p63-72

## 福島県庁

- ・(25)参考図書  
『三島通庸と県庁誘致運動 地域振興  
をめぐる人々』 郡山市歴史資料館／  
[編]・発行 10月 p11

## 福島第一原子力発電所事故

- ・(29)文献  
「東京電力福島第一原子力発電所事故  
による新潟県への県外避難者の心理」  
藤田浩之／[著] 『トラウマティック・  
ストレス 第16巻第1号』 2018年6  
月 p65-66
- ・(26)参考文献  
「灰色地帯を生き抜けること」 箭内匡  
／著 『震災復興の公共人類学』 1月  
p52-53
- ・(23)参考文献  
「災害に抗する市民の協働」 関谷雄一  
／著 『震災復興の公共人類学』 1月  
p129-130
- ・(38)参考文献  
「原発事故避難者受け入れ自治体の経  
験」 辻内琢也 [ほか]／著 『震災復  
興の公共人類学』 1月 p165-167
- ・(33)参考文献  
「まなび旅・福島」 山下晋司／著  
『震災復興の公共人類学』 1月  
p210-212



- ・(36)文献リスト  
『フクシマの医療人類学』 辻内琢也／  
編著 2月 p308-309
- ・(34)参考文献  
「第3章 廃炉への道のり」 宮野廣[ほか]  
/著 3月 『原子力のいまと明日』  
日本原子力学会／編 丸善出版 p80
- ・(30)参考文献  
「第6章 事故による放射線の健康影響  
と放射線の防護・管理」 高橋千太郎[ほか]  
/著 3月 『原子力のいまと明日』  
日本原子力学会／編 丸善出版 p145
- ・(51)参考文献  
「第7章 事故による環境の汚染と修復、  
住民生活への影響」 井上正 [ほか] /  
著 3月 『原子力のいまと明日』 日  
本原子力学会／編 丸善出版 p145
- ・(26)参考文献  
「研究ノート 福島県における東日本  
大震災の記憶を残す活動とアーカイブ  
拠点施設の構築」 深谷直弘 / [著]  
『福島大学地域創造 31(1)』 9月  
p67
- ・(28)引用・参考文献  
「避難者の生活再建と住まいの再生」  
除本理史／著 『ふくしま原子力災害か  
らの複線型復興』 ミネルヴァ書房 6月  
p112-114
- ・(20)引用・参考文献  
「災害時の福祉課題とその支援」 丹波  
史紀／著 『ふくしま原子力災害から  
の複線型復興』 ミネルヴァ書房 6月  
p155-156
- ・(28)引用・参考文献  
「原子力発電所事故後の福島県産品に  
対する評価基準と地域メディア」 安  
本真也／著 『ふくしま原子力災害から  
の複線型復興』 ミネルヴァ書房 6月  
p211-213
- ・(41)引用・参考文献  
「原子力災害法制の現状と課題」 清  
水晶紀／著 『ふくしま原子力災害から

の複線型復興』 ミネルヴァ書房 6月  
p240-242

- ・(30)引用・参考文献  
「賠償の問題点と被害者集団訴訟」 除  
本理史／著 『ふくしま原子力災害か  
らの複線型復興』 ミネルヴァ書房 6月  
p270-271
- ・(138)参考文献  
『原子力の人類学』 内山田康／著 青  
土社 9月 巻末
- ・(50)引用・参考文献  
『トモダチ作戦の最前線』 磯部晃一／  
著 彩流社 8月 p284-287

### 舟引き祭り

- ・(42)参考文献  
『磐梯神社の舟引き祭り』 TEM研究  
所／調査・作成 文化庁文化財部伝統文  
化課 2018年3月 p140-141

### 古殿町

- ・(106)参考文献一覧  
『ふるどのの歴史 ビジュアル版』 福  
島県古殿町町史編纂委員会／編 古殿  
町 3月 p228-231

### 戊辰戦争

- ・(57)参考文献  
『西郷村の戊辰戦争』 (西郷村文化財資  
料集 第4集) 西郷村教育委員会／  
[編]・刊 p73-74
- ・(66)主な参考資料・図書  
『奥羽の義』 河北新報社編集局／編  
河北新報出版センター 8月 p219

### 埋蔵文化財

#### ⇄会津若松市

- ・(21)参考文献  
『高野地区試掘調査報告書 1』 (会津  
若松市文化財調査報告書 第154号)  
五十嵐純一／編著 会津若松市教育委  
員会 2018年3月 p29
- ・(24)[参考文献]  
『一瀬要人邸跡』 (会津若松市文化財調  
査報告書 第158号) 会津若松市教育  
委員会／編・刊 2018年3月 p33

・(20)[参考文献]

『若松城郭内武家屋敷跡 本一ノ丁跡  
2』(会津若松市文化財調査報告書 第159  
号) 会津若松市教育委員会／編・刊  
2018年3月 p26

**文書目録**

・(1607)

『福島県歴史資料館収蔵資料目録 第50  
集 県内諸家寄託文書 円谷善人家文書  
小針重郎家文書(その2)』 福島県文化  
センター歴史資料課／編 福島県文化  
振興財団 3月 136p

**⇄福島市**

・(379)遠藤元男家文書目録

『福島市史資料叢書 第102輯 遠藤元男  
家文書』 福島市史編纂委員会／編 福  
島市教育委員会 3月 p186-207

・(1920)北信支所文書(旧瀬上町役場文書)  
目録

『福島市史資料叢書 第103輯 北信支所  
文書(旧瀬上町役場文書)』 福島市史  
編纂委員会／編 福島市教育委員会 3  
月 p130-214

**⇄郡山市**

・(893)

『郡山市歴史資料館収蔵資料目録 第33  
集 齊藤家文書』 郡山市歴史資料館／  
編 郡山市 3月 38p

**人物編**

**安藤信正**

・(20)関連資料

『安藤信正とその時代展』 いわき市立  
いわき総合図書館／編・発行 10月  
p10

**井土靈山(経重)**

・(159)参考文献

『井土靈山の生涯と事績』 井土慎二／  
[著]・刊 3月 p37-40

**神谷氏**

・(89)参考・引用文献

『会津神谷家』 工藤良之／著・発行  
2018年10月 p163-166

**蒲生氏郷**

・(77)参考文献

『近江が育んだ九二万石の大名』 寺脇  
丕信／著 講談社エディトリアル  
2018年11月 p171-176

**蒲生氏**

・(50)引用・参考文献

『蒲生氏の時代』 三春町歴史民俗資料  
館／編集・発行 2015年10月 p48

**草野天平**

・(20)参考文献

『いつくしみ深き』 安竜昌弘／著  
日々の新聞社 2018年11月  
p265-266

**久保猪之吉**

・(307)久保猪之吉著作リスト

『草紅葉 久保猪之吉とより江』 神  
谷優子・坂口博／共編 福岡市文学館  
11月 p74-78

**佐藤玄々(朝山)**

・(374)佐藤玄々文献目録

『近代彫刻の天才佐藤玄々<朝山>』 佐  
藤玄々／著 求龍堂 2018年11月  
p179-191

**志賀忠重**

・(68)主な参考文献

『空をゆく巨人』 川内有緒／著 集英  
社 2018年11月 p361-364

**鈴木天眼**

・(45)参考文献

『東洋日の出新聞 鈴木天眼』 高橋信  
雄／著 長崎新聞社 10月 p469-470

**関根正二**

・(630)参考文献目録

『関根正二展 生誕120年・没後100  
年』 福島県立美術館 [ほか]／編・  
発行 c2019 p176-187

## 円谷幸吉

- ・(32) 参考文献  
『円谷幸吉 命の手紙』 松下茂典／著  
文藝春秋 10月 p212-214

## 中山義秀

- ・(25) 主な参考文献  
『中山義秀の歴史小説『残照』と郡山町の誕生と遊女の句碑』 庄司一幸／著・刊 4月 p24-25
- ・(31) 主な参考文献  
『中山義秀と恩師齋藤矯と菜の花事件』 庄司一幸／著・発行 6月 p38

## 芳賀忠行

- ・(24) 芳賀忠行執筆文献, 関係文献  
『芳賀忠行画集』 芳賀忠行画集編集委員会／編 芳賀節子 1987年10月 p7-8

## 深澤忠孝

- ・(17) 主な詩集, 主な著作・編著など  
「深澤忠孝略歴」 『詩誌 熱気球 第18集』 詩の会こおりやま 2月 p25

## 本田久市

- ・(55) 著書/論文  
「本田久市先生の履歴および研究業績」 『東北社会福祉史研究 第26号』 2008年3月 p4-7

## 山口弥一郎

- ・(33) 参考文献  
「磐梯町所蔵・山口弥一郎旧蔵ノート— 解題と目録—」 内山大介 [ほか]／著  
『福島県立博物館紀要 33号』 3月 p8

## 湯浅譲二

- ・(144) 主要参考文献  
『湯浅譲二の音楽』 ルチアナ・ガリアーノ／著 アルテスパブリッシング 9月 p316-32

## 吉野せい

- ・(173) 参考文献  
『メロスの群れ 評伝吉野せい』 小沢美智恵／著 シングルカット 7月 p240-249

(地域資料チーム 田中信乃)

=====  
福島県郷土資料情報 No. 60

発行日：2020年3月5日

編集・発行：福島県立図書館  
=====